

ご意見等の 概要

全般に具体性が希薄で、実現の結果が見えにくい、施策の効果が見えにくい案に思えます。総合計画といいつつ、総合的な視野にかけ、現在の行政課題に対して直面した持続的な計画になっていないと思われます。支え担う主体が見えにくいと思います。これはいわゆる学識経験者かコンサルに外注して作成した案でしょうか、あるいは市の誰かが起案したものとするなら、具体的な施策の実現を責任もって担う主体の所在が、それにしては、わかりにくいということです。高校生に聴くとか、ワークショップでやるとかいうことも必要でしょうが、住民で実際に行政と協働して計画を実行する体制が具体的に示されていないのではないですか。既存の団体によりかかり、言葉で記号のように並べるのは簡単ですが、実施に向けた具体的な「戦略」が見えません。一方的で双方向性が見えにくい計画案だと思います。県の統計を見ると、耕作放棄地や若者の流出は少しも改善されていないはずです。一番の課題を示すだけでなく、どうやればストップできるのかの戦略が代替物で示されているだけのように見えます。

とても全体についていちいち指摘することはできませんので、下記について意見をのべます。

(ページ番号 124)

4-3-1 市街地の文化的景観の形成

「市民及び事業者」の意識啓発は行政が行うのですか。意識を啓発するにはそれなりの知見と責任を持った主体性が必要です。この計画について聴かれたら明快に説明できる人がいなければなりません。

宇和島市の「文化的景観」とは何か。合併された地区のそれぞれの城下町、陣屋町、漁村、農村、街道、峠など歴史的な景観、山岳やリアス式の海岸島嶼部、自然景観、1次産業や工芸と結びついた景観をおおきくどう捉えるかという総合的な視野と細部に対する精細な検討から計画のパラダイムが引き出されていない。細部の具体性について、起案者にストーリーが見えているのだろうか。

たとえば三間町なら、かつて「日本最古の農書」として知られた「親民鑑月集」を含む『清良記』の舞台、井関農機の創業者を生

んだ土地、これは全国に通じる文化的歴史的資源であり、当該地区の個性となっています。版画家の畦地梅太郎などを輩出した風土、遍路の札所がある三間盆地。それでどのような物語を紡ぐのか。

吉田町なら、陣屋町の都市計画が 17 世紀から伝えられた町。漢和辞典「字源」の簡野道明の故郷。図書館。福沢諭吉の愛弟子村井保固、山下亀三郎らを輩出した背景となった吉田藩の風景。歴史ある大乘寺他の寺院群。小林朝治の版画に描かれた風景。そして南予の原風景であるだけでなく、賛美歌で全国に「日本の原風景」として知られる法華津峠。そして、蜜柑と漁業がつくる景観。「国安の里」の活用が不十分で、「御練り文化」というなら折角の施設を活かすべきです。施設の管理者に十分な地域に対する知見と愛着が見えない、つくったらあとは持続するための取り組みが必要です。

先年、市の補助金を得て「にゃんよオレンジライド」の自転車イベントの食事休憩場所として借用し、保健所の一時使用の許可を得て、全国からの多くのサイクリストに鯛飯などを提供したが大好評でした。山車を展示するだけでは人は来ません。特産品や地元の人情、歴史風土を組み合わせる場所として歴史文化資源を活用すべきです。補助金のイベントで交流人口をふやすだけでなく、リピーターをふやすための戦略がなければ公的資金でレジャーの補助をしているだけになります。

津島町では、最近『大番』『娘と私』など文庫本の復刊が相次ぎ、売れに売れています。「さっちゃん」などテレビドラマにもなった獅子文六の文学の舞台となった岩松は、海の幸、闘牛など、南予の食、行事、祭礼や文化を色濃く伝える土地です。岩松川をさかのぼった哲学者藤岡蔵六の故郷岩渕には二重柿の伝説がある満願寺、その hinterland で、大原美術館初代館長武内潔真と倉敷の社会衛生や医療を支えた医師三橋玉見を育んだ御槇、鎌倉時代からの炭焼窯や古い遍路道が通る当該地区には、豊かな物語と美味、美しい自然とトッポ話。遍路道がおりなす観光資源があふれています。山村と市街地、漁村が三位一体となった地域です。

宇和島市はどうか。国指定の史跡、天赦園ひとつとっても、史跡の真実性が保持されているでしょうか。法華津峠の荒廃をみるにつけ、条例をつくるより先に、保全に着手すべきではないかと心

配です。城山の世界遺産ともいべき原生林。綺羅星のごとき歴史上の人々。宇和島警察の建物が歴史資料館ということのようですが、内部はまったくちがっています。県の歴史博物館、伊達博の連携活用も不十分です。

(ページ番号 124)

4-3-2 遊子水荷浦の段畑の保存・管理・活用

主要事業を選ぶ根拠、過去の施策との連続性、目標と波及効果、達成指標の評価を踏まえていますか。全体の中でなぜ主要なのかという判断の説明がありません。当該地区は、看板や、公園・港湾工事により景観が画一化されてきていますが、文化的景観としての配慮に欠けていると思われます。

(ページ番号 124)

4-3-3 津島地区岩松の伝統的な町並みの保存整備

岩松の重伝建の立派な報告書が活用されていないのではないかと。旧東小西家の大畑旅館の保存は喫緊の課題であり、もし獅子文六の暮らした建物や「てんやわんや」の舞台の座敷や庭園が今以上に消えれば、大きな観光資源が失われます。地域の物語の柱が消えます。活用計画も、松山の「坊っちゃん文学賞」に張り合う、「てんやわんやユーモア文学賞」くらいやってもよいでしょう。宿泊できる「獅子文六文学館」実現に向け、獅子文六と当地を熟知した地域の人々によって実現が推進されるのが望ましい。獅子文六の南予小説の魅力は有名な『てんやわんや』や『大番』だけでなく、短編や随筆にもあふれています。町内を通る三つの遍路道も大きな資源です。そういう地域の魅力と山村、中心市街地、漁村の織りなす暮らしの歴史と生活文化の上に町並みが形成されているのであり、その理解がなくして町並み保存はできません。重伝建の報告書を熟読されることを希望します。

今回は時間がなく、もうこの程度にとどめさせていただきますが、このようなおおざっぱな計画で地域の将来に向けた施策がつけられるとするならば、現在の若者の流出をとどめるのは難しいと思われます。養殖水揚げ日本3位売上げも3位だそうです、20年前の数字と比較してみてください。住民の満足度のアンケートの選択肢、サンプルについても大きな疑問を感じますが、個別の質問に解答は出来ないそうですので、疑問があるとの指摘にとどめます。

	以上、意が尽せず無礼千万なところがありましたら御容赦ください。
市の対応	総合計画は、各分野に掲げた政策目標に対して、達成すべき施策内容を体系的に示した基本方針です。具体的な事業の取り組みにつきましては、総合計画の基本方針を基に、各分野において策定する個別計画の中で示す方針にしております。総合計画の評価につきましては、第1次計画期間が今年度末をもって終了いたしますので、検証を行い、今後の取り組みにつなげてまいります。 基本構想につきましては、まちづくりの指針として重要な部分ですので、住民アンケートや、市民・高校生ワークショップで協議した内容など、市民の皆さんの意識・意向を反映させていただきました。また、その結果を前提とした職員研修を開催するなど、職員の意識向上に活用させていただきました。 <u>4-3-1 市街地の文化的景観の形成</u> ご指摘のとおり「文化的景観」を市や審議会等の関係者が十分に審議し、市民との意見交換の中で具体的に作り上げていくべきものだと思います。旧 1 市 3 町にはそれぞれの歴史、風土に基づいた風景・景観があります。それを踏まえた上での景観条例を具体的に機能させる方針や計画を策定し、施策として実行しなければなりません。これまで本市は「景観条例」を策定しておりますが、遊子水荷浦以外計画もなく、それぞれの風景・景観を守ってこようとする施策は乏しいものでした。今後は、それを踏まえた上で、「景観」を意識した施策を進めてまいります。 <u>4-3-2 遊子水荷浦の段畑の保存・管理・活用</u> 遊子水荷浦の文化的景観は段畑のみならず、水辺、海も含んだこれまでの生業に基づく景観を「文化的景観」とし、今後、この景観を保存し活用していこうとする国の選定にもかかわらず、これまで不十分であったと認識しております。今後は、その反省を踏まえ、様々な「景観形成事業」を導入し、地元への啓発、観光客への周知も含め、市が積極的に景観を

意識した施策をとっていかねばならないと感じております。

4-3-3 津島地区岩松の伝統的な町並みの保存整備

ご指摘のとおり、岩松地区の町並み整備につきましては、「岩松」伝統的建造物群保存対策調査報告書に基づき進めてまいります。

また、岩松にとって獅子文六や「てんやわんや」はとても大事な要素であり、大畑旅館の建物、旅館としての保存は岩松の観光資源、発信コンテンツとしてなくてはならないと考えております。ご意見を十分に参考にさせていただき今後、岩松の詳細な計画に盛り込んでまいりたいと思います。

貴重なご意見をありがとうございました。